

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に備えて

新型コロナウイルス感染症対策セミナーを開催

岩手県社会福祉協議会高齢者福祉協議会・障がい者福祉協議会及び岩手県知的障害者福祉協会は、新型コロナウイルス感染症に関する理解を深め、感染予防及び感染拡大の防止を図ることを目的に、令和2年10月と11月に、県内2会場で対策セミナーを開催しました。

岩手県社会福祉協議会高齢者福祉協議会・障がい者福祉協議会及び岩手県知的障害者福祉協会は、新型コロナウイルス感染症に関する理解を深め、感染予防及び感染拡大の防止を図ることを目的に、令和2年10月と11月に、県内2会場で対策セミナーを開催しました。

セミナーには、各会員施設の職員と岩手県災害派遣福祉チーム員、延べ151名が参加し、岩手県新型コロナウイルス感染症対策専門委員会委員長



櫻井部長による講義

でいわて感染制御支援チーム（ICAT）の副統括である、岩手医科大学附属病院感染制御部の櫻井滋部長と、ICATのメンバーである感染管理認定看護師4名を講師に、講義と医療用ガウン等の着脱・取扱方法の実技が行われました。

櫻井部長からは、感染症対策のポイントとして、「安心と安全を区別し、いつもどおり暮らすこと」「感染症対策の基本に忠実に対応し、暮らすこと」「ルールを守って対応し、暮らすこと」や、可能であれば施設内に「清潔ゾーン」と「不潔ゾーン」を設定し、その間に「中間のゾーン（防護装備の着脱を行うゾーン）」を設けることと、施設における換気のポイント等について説明がありました。

参加者の佐々木雅子さん（障がい者支援施設「吉浜荘・大船渡市」）は、「POPON装着・脱衣順の再確認、食事介助や掃除方法など、自前で集めた情報にはないポイントがたくさんあり、とても参

社会福祉施設等応援職員派遣調整事業を実施

考になった。施設にウイルスを持ち込むのは職員だと思うので、できる限り持ち込まないように、これからも感染対策を確実にしたい」と話し、災害派遣福祉チーム員の小泉進さんから「基本的な人権の保護のため『敵は病原体であつて患者ではない』という言葉を忘れず、正しい知識のもとで対処していくことが重要だと再確認した」との感想がありました。

各種別協議会では、新型コロナウイルス感染症への対応について、今後もそれぞれが個別に取り組むほか、今回のように連携・共同した取組も行っていきます。

なお、令和2年11月26日に奥州市内で開催を予定していた3回目のセミナーは、県内での新型コロナウイルス感染者の増加を考慮し、延期となりました。

岩手県社協では、岩手県からの委託を受けて、「新型コロナウイルス感染症の感染拡大時における社会福祉施設等応援職員派遣調整事業」を実施します。この事業は、社会福祉施設（入所施設）の利用者・職員が新型コロナウイルス感染症に感染し職員不足等から施設運営に影響が生じる場合、施設サービスの提供を継続できるよう、他の施設から応援職員を派遣するものです。

岩手県社協では、事業の第一段階として、県内の社会福祉施設（介護老人保健施設、グループホームを含む）を対象に応援施設（応援職員の派遣が可能な施設）の募集を行い、令和2年12月末現在、介護施設80か所（登録職員122名）、障がい者施設47か所（登録職員70名）が登録しています。

応援施設の登録は、今後も随時受け付け、支援体制のさらなる整備を図っていきます。



感染管理認定看護師による個人防護具着脱の指導